

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：33501

研究種目：若手研究

研究期間：2019～2022

課題番号：19K19399

研究課題名（和文）東京圏プライマリ・ケア分野高度実践看護師のコンピテンシー・モデルの開発

研究課題名（英文）Development of a Competency Model for Advanced Practice Nurses in the Tokyo Metropolitan Area's Primary Care Field

研究代表者

大釜 信政（OGAMA, Nobumasa）

帝京科学大学・医療科学部・准教授

研究者番号：20711675

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,500,000円

研究成果の概要（和文）：高齢者人口が増えつづける東京圏では、地域包括ケアシステムの構築が急務であるが、タイムリーな保健・医療サービスを提供できる体制が十分に整備できていない。そうした状況の中で、一定の範囲内で診療も行えるプライマリ・ケア分野高度実践看護師を活用することで、療養者はこれまで以上に住み慣れた地域で生活を継続することができる。

本研究では、地域包括ケアに資する高度実践看護師の養成とその活用に向けて、都市圏で暮らす住民、診療所医師、訪問看護師、高齢者施設看護師に対する調査結果に加えて、海外の文献も踏まえ、高度実践看護師に求められるコンピテンシーとして6領域48項目の知識・スキル・思考パターンを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

高齢化が加速する東京圏では、地域包括ケアシステムの具現化が重点課題になっている。そうした課題がある中で、本研究は以下の4つの理由から大きな社会的意義をもつ。

1. 東京圏の在宅療養支援診療所の医師、訪問看護師、高齢者施設看護師とプライマリ・ケア分野高度実践看護師との協働による保健・医療サービス推進に向けた貴重な資料となる。2. 東京圏住民に対する24時間対応でタイムリーな保健・医療サービスの拡充につながる。3. 可能な限り住み慣れた地域での療養生活をこれまで以上に支えられる。4. プライマリ・ケア分野高度実践看護師養成カリキュラムの検討に向けた貴重な資料となる。

研究成果の概要（英文）：In the Tokyo metropolitan area, where the elderly population continues to increase, it is urgent to establish a comprehensive regional care system. However, the system for providing timely healthcare services is not sufficiently developed. In such a situation, by utilizing advanced practice nurses in the primary care field who can provide medical treatment within a certain range, patients can continue to live in their familiar communities more than ever before.

This study clarifies the knowledge, skills, and thought patterns required for advanced practice nurses to contribute to regional comprehensive care by examining the survey results of residents living in urban areas, clinic physicians, visiting nurses, and nursing staff in elderly care facilities, as well as overseas literature. The competency of advanced practice nurses was revealed to consist of six domains and 48 items.

研究分野：医療系社会学

キーワード：高度実践看護師 ナース・プラクティショナー プライマリ・ケア コンピテンシー 尺度開発 都市圏 居宅 地域包括ケア

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

人口が一極集中する東京圏においては、今後も増え続ける高齢者をどう支え、それに必要となる巨額の財源をいか様にして確保するかという課題に直面している。わが国の保健・医療・介護の在り方については、費用面への対応のみならず、都市部それぞれの地域包括ケアシステムの構築といった喫緊の課題も抱えている。よって、組織・職種のヒエラルキーに縛られながら縦割り構造によって提供されてきた保健・医療サービス体型よりも、医療専門職同士がフラットな立場で協働することを前提とした、療養者ニーズに対応するべくパフォーマンスの向上を目指す必要がある(厚生労働省, 2017)。とくに、慢性疾患患者に対する効果的な療養生活支援や終末期にある療養者への全人的なケアについて、医療費適正化も考慮したうえで、居宅サービスの拡充が求められている。

1980年代以降の米国では、個人や家族、地域社会の複雑な健康問題に対応するため、疾病予防・診断・治療に関する専門知識・技術を有する高度実践看護師による診療を法制化した(佐藤, 1999)。高度実践看護師は、地域住民にとって利用しやすい丁寧な保健・医療サービスを提供し続け、在宅で療養する高齢者に対する疾病予防、身体的異常の早期発見、初期救急対応などに大きく貢献している(Alessi et al., 1997; Bula et al., 1999; Stuck et al., 1995)。高度実践看護師と専門医との協働による医療サービスと、専門医単独による医療サービスを比較した場合、前者の医療サービスの方が効果的なサービスを提供できる点について示唆されている(Reuben et al., 2013)。

日本の看護系大学院で診療に関する知識・技術も兼ね備えた高度実践看護師の養成が開始されて、10年以上が経過した。しかし、日本では、医師法第17条に基づいて、看護師の判断と責任で診療を行うことは禁じられている。

海外では40年以上にわたって診療も含めて地域保健・医療に貢献しつづける高度実践看護師が存在する一方、日本の地域医療に貢献し得る診療能力も兼ね備えた高度実践看護師とはいかなる形象なのかについて検討を試みた。しかし、高度実践看護師コンピテンシー・モデルの開発に至った国内先行研究は見当たらない。また、多職種連携によって居宅における医療サービスの拡充の必要性が指摘される中、高度実践看護師が、プライマリ・ケアを担う在宅療養支援診療所・病院の医師や訪問看護師らとともに療養者のニーズに合致したサービスを創出することは必然の帰結と考える。従って、多職種間の連携・協働を推進するためにも、プライマリ・ケア分野高度実践看護師のコンピテンシー・モデルについて検討する必要がある。

2. 研究の目的

本研究では、都市圏で暮らす地域住民、在宅療養支援診療所で訪問診療に携わる医師、訪問看護師、高齢者施設の看護師の見解に加えて、プライマリ・ケアに貢献している高度実践看護師のコンピテンシーに関する海外文献も踏まえ、東京圏でプライマリ・ケアを居宅で実践するに足りる高度実践看護師のコンピテンシー・モデルを開発する。

3. 研究の方法

(1) 本研究における用語の定義

本研究では、高度実践看護師のコンピテンシー・モデルを開発する過程において、6つの用語を以下のように定義した。

高度実践看護師

医師が常駐しない居宅で療養生活を支えるためには、生活と医学の両方の観点から的確にヘルスアセスメントしたうえで、個別性を重んじたプライマリ・ケアを提供する必要がある。本研究では、高度実践看護師を「看護学と医学を基盤とした専門知識・技術に基づいて、居宅で生活する療養者にとって必要なプライマリ・ケアを提供できる看護師」と定義する。

プライマリ・ケア

日本では、住み慣れた自宅や高齢者施設で療養生活を継続できるよう、24時間対応で医療サービスを提供する体制の構築が求められている。こうした状況を踏まえ、本研究では、プライマリ・ケアについて「地域生活者に対する疾病予防、身体的異常の早期発見、救急対応、終末期対応など、居宅での療養生活に必要な保健・医療支援」と定義する。

居宅

「療養者が生活を送る自宅もしくは高齢者施設」と定義する。

療養者

「病とともに生活する人」と定義する。

コンピテンシー

「その行動を引出す動因・動機、自己概念・自己イメージ、知識、スキル、思考パターンなど、人の特性やパーソナリティを包括した概念(武村, 2014)」と定義する。

尺度の信頼性と妥当性

尺度には、信頼性・妥当性を有することが求められる。本研究では、尺度の信頼性を「尺度が測定していると考えられる属性をどの程度一貫して測定しているかということ(河口, 2000)」と

捉え、妥当性については「尺度が測ろうとしている概念をどのくらい適切に測っているかということ(河口, 2000)」と定義する。内容的妥当性については、「専門家の判断に基づき内容の適切さや代表性をみるもの(清水, 2005)」と定義する。コンピテンシー尺度の適切さと代表性を図る視点として、本研究では、必要性和重要性に加えてそれらの理由にも着目した。

(2) 高度実践看護師に求められるコンピテンシー項目の作成

本研究の第一段階として、東京圏在住で入院や介護の経験をもった中年世代にある12名の男女や東京圏で訪問診療に携わる9名の医師に対して実施したインタビュー調査の結果に加えて、海外の文献も加味しながら、東京圏でプライマリ・ケアを実践するに足る高度実践看護師のコンピテンシーについて検討した。

(3) 高度実践看護師のコンピテンシーの尺度開発と信頼性・妥当性の検証

大都市圏の診療所・病院で訪問診療や往診に携わる医師または看護師、訪問看護師、高齢者施設に勤務する看護師に対して、質問票を用いて、上記(2)で作成した60項目のコンピテンシーそれぞれの必要性について5件法で回答を求めた。

質問票による調査結果の分析方法は、次の通りである。まず、コンピテンシーに関する60の質問項目ごとに回答の平均値と標準偏差を算出した。冗長性の高い項目を削除するために、スピアマンの順位相関係数を用いて検証した。つづいて、コンピテンシーに関する複数の変数の関係性をもとにしながら因子構造について検討する目的で、最尤法、プロマックス回転による探索的因子分析を実施した。共通性が0.16未満や因子負荷量0.4未満の項目を削除しつつ、因子分析を繰り返した。因子数が決定したのちに、因子名について検討した。探索的因子分析から抽出されたコンピテンシー尺度の構成概念妥当性を検証するために、確認的因子分析によって因子構造モデルの適合度を算出した。因子構造モデルの評価には、GFI (Goodness of Fit Index), AGFI (Adjusted Goodness of Fit Index), CFI (Comparative Fit Index), RMSEA (Root Mean Square Error Approximation)の適合度指標を用いた。尺度の信頼性については、Cronbachの係数(信頼性係数)を算出し、内的整合性の検証を行った。

(4) 高度実践看護師のコンピテンシー尺度の内容的妥当性に関する検討

大都市圏の居宅でプライマリ・ケアを提供するために必要な高度実践看護師のコンピテンシーの尺度(上記(3)成果)の内容的妥当性を検討する目的で、居宅医療の現状や課題を熟知し療養生活支援で重要な役割を担う東京圏の訪問看護師に対して、コンピテンシーの必要性や重要性に関する半構造的面接調査を実施した。訪問看護師の発言内容に基づいて、次の方法で内容的妥当性を検討した。訪問看護師ごとの発言を逐語録に起こし、それぞれのコンピテンシー項目の必要性や重要性に関する訪問看護師の特徴的な見解とその理由を記述した。発言内容を慎重に確認しながら、類似するコンピテンシー項目の統合、修正、追加を試みた。なお、訪問看護師の発言内容を分析する過程では、研究参加者の経験に基づく語りそのものから個別の主観的世界に着目するナラティブ分析(フリック/小田 監訳, 2022; 灘光・浅井・小柳, 2014; 野口, 2005; ホロウェイ・ウィーラー/野口 監訳, 2007)を参考にし解釈した。

4. 研究成果

(1) 高度実践看護師に求められるコンピテンシー項目に関する分析結果

東京圏在住で入院や介護の経験をもつ中年世代に該当する12名の男女や東京圏で訪問診療に携わる9名の医師に対して実施したインタビュー調査の結果に加えて、海外の文献も加味しながら、東京圏でプライマリ・ケアを実践するに足る高度実践看護師のコンピテンシーについて検討した。その結果、60項目のコンピテンシーを抽出することができた。

(2) 高度実践看護師のコンピテンシーの尺度開発と信頼性・妥当性の検証結果

高度実践看護師のコンピテンシーの尺度開発

大都市圏の診療所・病院で訪問診療や往診に携わる医師または看護師、訪問看護師、高齢者施設に勤務する看護師に対して、質問票を用いて、60項目のコンピテンシーそれぞれの必要性について5件法で回答を求めた。309名による回答を分析の対象とした(有効回収率89.3%)。

60項目のコンピテンシーのすべてを用いて、探索的因子分析(最尤法・プロマックス回転)を実施した。スクリープロットに沿って因子分析を繰り返し行い、共通性0.16かつ因子負荷量0.40以上を基準として項目を採用し、最終的には、14項目を削除し、6因子46項目のコンピテンシー尺度で構成できた。

探索的因子分析で抽出された6領域46項目からなる高度実践看護師のコンピテンシー尺度の構成概念妥当性を検証するために、確認的因子分析によって因子構造モデルの適合度を算出した。その結果、GFI = 0.759, AGFI = 0.732, CFI = 0.875, RMSEA = 0.060であり、因子構造モデルの適合度は許容範囲内であると判断した。

尺度の信頼性を検証する目的で、Cronbachの係数を算出した。その結果、尺度全体の係数は0.964であり、6因子それぞれの係数は0.707~0.927となった。それらの係数が0.70を下回っていなかったことから、内的整合性を確保できた尺度と判断した。

(3) 高度実践看護師のコンピテンシー尺度の内容的妥当性に関する検討結果

大都市圏の居宅でプライマリ・ケアを提供するために必要な高度実践看護師のコンピテンシー尺度の内容的妥当性を検討する目的で、東京圏の訪問看護師に対して、コンピテンシーの必要性や重要性に関する半構造的面接調査を実施した。

5名の訪問看護師の見解に基づいて検討した結果、一部のコンピテンシー項目は高度実践看護師に適した内容に修正した。類似するコンピテンシー項目は統合し、新たに6つのコンピテンシーも追加した。最終的に、6領域48項目のコンピテンシー尺度(表1)を設定した。

訪問看護師に対する調査結果に基づいて、その人らしい療養生活を可能な限り居宅で支えつづける高度実践看護師に相応しいコンピテンシー尺度へと改善できた。

本研究の課題としては、自律的に診療行為を担うための大学院教課程を修了したのちにプライマリ・ケアに携わる看護師にも調査を拡大し、コンピテンシー尺度の実用性について検証する必要がある。今後も、居宅医療現場のニーズや課題に対応できる高度実践看護師の具体的な形象を模索していきたい。

表1 高度実践看護師のコンピテンシーの尺度原案(6領域・48項目)

領域名	項目数
居宅で日常的に施される的確なプライマリ・ケア	17項目
地域に根ざした協働志向	7項目
居宅で自律的な判断のもと行われる終末期診療	7項目
居宅での救急対応	8項目
看護専門職としての立ち位置	5項目
居宅で自律的な判断のもと行われる検査と薬物処方	4項目

出典)「大釜信政(2023). 都市圏プライマリケア分野高度実践看護師のコンピテンシー尺度原案の内容的妥当性 訪問看護師の見解に基づいた検討 , 医療福祉政策研究,6:45-68.」より作成

<引用文献>

- Alessi, C.A., Stuck, A. E., Aronow, H. U., et al. (1997). The process of care in preventive in-home comprehensive geriatric assessment, *Journal of the American Geriatrics Society*, 45:1044-1050.
- Bula, C. J., Berod, A. C., Stuck, A. E., et al. (1999). Effectiveness of preventive in-home geriatric assessment in well functioning, community-dwelling older people: Secondary analysis of a randomized trial, *Journal of the American Geriatrics Society*, 47:389-395.
- フリックウヴェ /小田博志監訳(2022). 新版 質的研究入門<人間の科学>のための方法論. 東京, 春秋社:pp.420-434.
- ホロウェイイミー, ウィーラーステファニー/野口美和子監訳(2007). ナースのための質的研究入門 研究方法から論文作成まで(第2版), 東京, 医学書院:pp.198-213.
- 河口てるこ(2000). 測定尺度の開発, *これからの看護研究-基礎と応用-*, 松木光子, 小笠原知枝(編集), 東京, ヌーヴェルヒロカワ:pp.347-353.
- 厚生労働省(2017). 新たな医療の在り方を踏まえた医師・看護師等の働き方ビジョン検討会報告書, 厚生労働省ホームページ, <https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-10801000-lseikyoku-Soumuka/0000161081.pdf>
- 灘光洋子, 浅井亜紀子, 小柳志津(2014). 質的研究方法について考える グラウンデッド・セオリー・アプローチ、ナラティブ分析、アクションリサーチを中心として, *異文化コミュニケーション論集*;12:pp.67-84.
- 野口裕二(2005). 研究方法としてのナラティブ・アプローチ, *日本保健医療行動科学会年報*;20:pp.1-6.
- 大釜信政(2023). 都市圏プライマリケア分野高度実践看護師のコンピテンシー尺度原案の内容的妥当性 訪問看護師の見解に基づいた検討, *医療福祉政策研究*,6:45-68.
- Reuben, D.B., Ganz, D.A., Roth, C.P., et al. (2013). The Effect of Nurse Practitioner Co-Management on the Care of Geriatric Conditions, *Journal of the American Geriatric Society*, 61(6):857-867.
- 佐藤直子(1999). 専門看護制度 理論と実践. 東京, 医学書院, 49-52.
- 清水裕子(2005). 測定における妥当性の理解のために 言語テストの基本概念として, *立命館言語文化研究*;16(4):pp.241-254.
- Stuck, A.E., Aronow, H.U., Steiner, A., et al. (1995). A trial of annual in-home comprehensive geriatric assessments for elderly people living in the community, *The New England Journal of Medicine*, 333:1184-1189.
- 武村雪絵編(2014). 看護管理に生かすコンピテンシー, 東京, メヂカルフレンド社:1-6.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 4件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 大釜信政	4. 巻 6
2. 論文標題 都市圏プライマリケア分野高度実践看護師のコンピテンシー尺度原案の内容的妥当性 訪問看護師の見解に基づいた検討	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 医療福祉政策研究	6. 最初と最後の頁 45-68
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大釜信政	4. 巻 5
2. 論文標題 大都市圏においてプライマリ・ケアを居宅で提供するために必要となる高度実践看護師のコンピテンシーの尺度開発：予備的定量調査の結果より	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医療福祉政策研究	6. 最初と最後の頁 53-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大釜信政，鹿島嘉佐音	4. 巻 18
2. 論文標題 日本で居宅ホスピスケアを拡充するうえで必要となる看護の要点 - 米国における先行研究からの検討 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 帝京科学大学紀要	6. 最初と最後の頁 1-10
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 大釜信政	4. 巻 4
2. 論文標題 プライマリ・ケア分野診療看護師（仮称）に求められる居宅療養生活支援コンピテンシー 東京圏在住の中年世代に対するフォーカス・グループ・インタビューから	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 医療福祉政策研究	6. 最初と最後の頁 39-58
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大釜信政	4. 巻 16
2. 論文標題 日本のプライマリ・ケアにおいて米国簡易診療所ナース・プラクティショナーの職能を活用することの有 用性と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 帝京科学大学紀要	6. 最初と最後の頁 61-70
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計4件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件)

1. 発表者名 大釜信政
2. 発表標題 都市圏プライマリ・ケア分野高度実践看護師のコンピテンシー尺度原案の内容的妥当性に関する検討ー訪問看護師に対する調査よりー
3. 学会等名 第63回日本社会医学学会総会講演集
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 大釜信政, 鹿島嘉佐音
2. 発表標題 日本で居宅ホスピスケアを拡充するうえで必要となる看護の要点 - 米国における先行研究からの検討 -
3. 学会等名 日本医療福祉政策学会2021年度研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 大釜信政
2. 発表標題 日本の大都市圏でプライマリ・ケアに資する高度実践看護師のコンピテンシー尺度の開発
3. 学会等名 日本医療福祉政策学会2020年度研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大釜信政
2. 発表標題 プライマリ・ケア分野診療看護師（仮称）に求められる居宅療養生活支援コンピテンシー - 東京圏在住の中年世代に対するフォーカス・グループ・インタビューから -
3. 学会等名 第60回日本社会医学会総会講演集
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関